

黒埼町自治功労者

教育、文化、産業、社会福祉、保健衛生、自治、行政に尽力された14人

昭和61年度の自治功労者が決まりましたのでご紹介いたします。選ばれたのは、町の教育、文化、産業、社会福祉、保健衛生、自治、行政などに尽力された14人です。(広報12月号既報)

■教育、文化に尽くした人
阿部丑雄氏



73歳 立仏1419番地2

○戦後まもないころから公民館活動に尽力し、立仏地域では立仏分館活動の基礎を作るとともに子供会などの育成に熱意をもって指導されました。■産業の振興に尽くした人
長谷川 茂氏



63歳 北場23番地

○農業共済事業損害評価員 (昭和46年〜61年、通算14年10か月)
外川 国義氏



59歳 木場1933番地

○農業共済事業損害評価員 (昭和44年〜50年、53年〜61年、通算13年11か月)

■社会福祉の増進に尽くした人
小林 梅八氏



71歳 大野3633番地

○保育所運営委員 (昭和44年〜60年、通算16年)
■保健衛生に尽くした人
大塚 輝善氏



63歳 大野2864番地1

○黒埼中学校区医委嘱 (昭和44年〜現在、通算17年) 国民健康保険運営協議会委員 (11年)
逢坂 信行氏



37歳 山田590番地1

○献血を54回もされ献血事業に貢献されました。
■本町職員として多年勤続した人

山際 新一郎氏



58歳 木場1951番地

○黒埼町職員 (昭和32年〜61年3月、勤続28年8か月)
永井 正三郎氏



61歳 板井545番地

○黒埼村農業共済組合職員 (昭和23年〜41年、勤続17年8か月) 黒埼町職員 (昭和41年〜60年3月、勤続19年)
榎 大谷 哲氏



大正14年生まれ 木場1776番地

○黒埼村農業共済組合職員 (昭和23年〜41年、勤続17年8か月) 黒埼町職員 (昭和41年〜59年12月、勤続18年8か月)
■多額の寄付をした人
佐藤 秀男氏



39歳 鳥原3848番地

○蛍光防犯灯26灯 (設置費含む) を寄贈。香典返しとして50万円寄付。

■多年、自治会長、自治振興に尽くした人

布川 良夫氏



71歳 黒鳥5024番地

○黒鳥5番組自治会長 (昭和50年〜60年、通算10年)
大橋 憲司氏



68歳 寺地1059番地

○寺地下自治会長 (昭和50年〜61年、通算10年)
佐藤 三代氏



61歳 黒鳥4871番地

○黒鳥1番組自治会長 (昭和51年〜61年、通算10年)
等原 重二郎氏



61歳 鳥原1587番地

○鳥原本村自治会長 (昭和50年から現在、通算11年)

黒埼町の今昔

町史編さん課

金持ちの入った上等の湯
いつから始まったかわからないが、緒立の湯があまり汚いため、黒鳥の人たちは湯治



緒立の湯治場 (共同浴場) 撮影年不詳 (昭和20年代か)

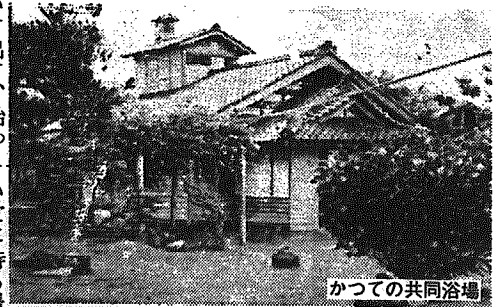
緒立温泉を訪ねる(三) 昭和二十三年、茨城県からの湯治客。 三か月の湯治で傷が完治する

この湯は普通の湯銭よりかなり高かったので、一般の人にはあまり利用せず、金持ちの人が入ったので、金持ちの湯ともいわれた。昭和になるともう上等の湯はなかったが、建物だけはかなり後まで残っていた。久住政治さんの話は、こしてもだんだん水がきれいにならず、上等の湯は廃止されたということである。
大正六年度鉱泉収入調
次の記録は大正六年四月から七年三月までの一か年間の湯銭の収入調べである。
大正六年度鉱泉収入調

月	並湯銭	上等湯銭
一	七、三〇〇	二、五〇〇
二	七、一〇〇	二、四〇〇
三	七、〇〇〇	二、三〇〇
四	六、八〇〇	二、二〇〇
五	六、六〇〇	二、一〇〇
六	六、四〇〇	二、〇〇〇
七	六、二〇〇	一、九〇〇
八	六、〇〇〇	一、八〇〇
九	五、八〇〇	一、七〇〇
十	五、六〇〇	一、六〇〇
十一	五、四〇〇	一、五〇〇
十二	五、二〇〇	一、四〇〇
合計	八、八〇〇	四、九〇〇

これにより、それぞれ一回の湯銭はわからないが、並湯銭に比べ、金持ちの湯銭は湯銭がかかるに少く、並湯銭が多かったことがわかる。
緒立の太鼓
明治中期から昭和の半ば近くまで続いたのだが、緒立八幡宮の社務所で大夫様が、夏は十一時と五時、冬は日が短いので十一時と四時に太鼓を鳴らした。
十一時の太鼓は、田畑で働く人々にお昼の間の休息をと知らせ、五時の太鼓は間もなく緒立の湯がおとされることを知らせるものなので人々は急いで仕事を切り上げて家に帰り、湯治場へ行った。
当時は、太鼓が時計がわりだった。「どうん、どうん」と鳴り響く太鼓は戦後(昭和二十三年)にボウ(サイレン)にかわり聞かれなくなった。
県外からの湯治客も
これは約四十年前ほど前に茨城県から緒立温泉へ長期間湯治にきた人の話である。
昭和二十三年、茨城県と栃木県の県境に近い笠間という町に、仙波という鉄砲鍛冶があった。この家の長男で開いた人が、足の向こうつねのあたりを傷つけたのが化膿し、病院で治療を受けてもよくなり、だんだん患部が広

がり悪化してしまつた。そんなとき、鉄砲うちから聞かされたのが緒立温泉である。
この鉄砲うちはよく新潟にきていて、緒立の湯で傷を治したことがあるという。
あるとき、足に大きなとげを踏み、化膿してしまつたが、緒立で湯治するうち、患部からとげが浮いて出て、治つたことを話して聞かせた。
仙波開さんは早速緒立を訪ね、角屋旅館に宿をとつた。
当時の緒立の旅館は、橋屋が一、二年前に廃業し、大黒屋、角屋、橋本屋の三軒で大入満員の状態であった。この湯治客の大半が、かいせんなどの皮膚病患者であった。
仙波さんは湯治場風景を次のように話している。「緒立温泉はよそと違って、内湯がないため、旅館から八幡宮境内の湯治場へ通つた。これを一日に五回も六回も繰り返した。ふるへ入ると皆私のような傷の人や、体中かいせんができた人が多く、気持ちの悪い思いで入つたこともありま



かつての共同浴場

そして、十四、十五日と湯治するうちに、傷はだんだん小さくなり、間もなく全快しようになつた。うとうと二十日、父の病気のためいったん、家に帰らなければならなくなつた。
開さんは湯治場から緒立の湯花を分けてもらい、後はこの湯花湯を沸かして入れれば治ると思

短信 11月

- ▼1日定例課長会議 ▼2日(〜3日)文化祭、農業祭、駅伝、健康展 (広報12月号既報) ▼4日コンピュータ検討会 (税務課) ▼5日地域おこしフェア(山形県)に町長出席 ▼6日議会厚生企業委員会 (弥彦村)に収入役同行 ▼7日収入役研修会 (巻町) ▼10日チャリティショー反省会 (商工振興課) ▼11日自治功労者表彰式 (広報12月号、1月号参照) 収入役会議 (六日町) ▼12日議会産業建設委員会 (安田町) 町長同行 ▼13日町村会助役部研修会 (静岡県) ▼15日 老人クラブ理事会 ▼17日除雪会議 (建設課) ▼18日農業共済理事役員研修会に町長出席、茨城県県庁広報研究会視察来町 (企画開発課) ▼19日町村会収入役研修会 (静岡県) ▼21日議会臨時議会 ▼西蒲原郡精進組合協議会に町長出席 (弥彦村) ▼25日全国町村長大会 (東京) に町長出席 ▼26日農業委員会 (農政課) ▼28日民生委員協議会 (住民福祉課) ▼29日議会全員協議会

